

## 専門【出題意図】

本専門試験は、博士後期課程進学者として求められる「高度な専門知識」「仏教史・仏教思想に関する体系的理解」「史資料に基づく分析力」「独自の問題設定能力」「学術的論述力」を総合的に確認することを目的としている。

修士課程において培われた基礎的研究能力を前提とし、博士課程において自立した研究者として研究を遂行するために必要な学術的素養および研究遂行能力が備わっているかを確認することを主眼とする。

### 【問題1】出題意図

博士後期課程進学者として求められる高度な専門的素養および学術的論述文構成力を確認することを目的とする設問である。

本設問では、受験者が仏教史・仏教思想・制度史・文献史等に関する専門的知識を体系的に有しているかを確認するとともに、資料や先行研究を踏まえた分析力、論理的思考力、学術的文章構成力を総合的に評価する。

また、与えられた主題について、単なる知識の羅列や説明にとどまらず、研究上の課題意識を明確にしたうえで、考察を展開できているかを重視する。

さらに、専門用語の適切な運用、論述の一貫性、などを通して、博士課程において自立した研究を遂行するための基礎的研究能力が備わっているかを確認する。

### 【問題2】出題意図

仏教学研究に不可欠な基本概念・重要人物・主要経典・事項に関する理解度を確認することを目的とする設問である。

提示された語句の中から二つを選択させることにより、博士課程レベルの研究を進める前提として、基礎用語を正確に理解しているかを測るとともに、単なる用語解説にとどまらず、その歴史的背景や思想的意義、研究上の位置づけを踏まえて簡潔に説明できるかを評価する。

これは、限られた字数の中で要点を整理し、学術的に適切な表現で記述する能力も確認するものでもある。